

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 55人

② 算数 55人

5 留意事項

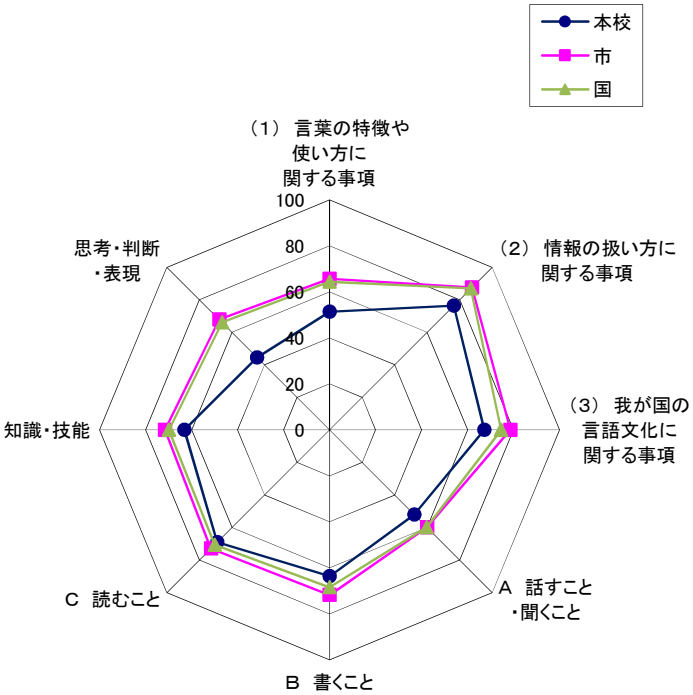
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	51.4	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	76.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	52.1	59.9	59.8
	B 書くこと	63.6	71.8	68.4
	C 読むこと	69.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	63.1	71.5	69.8
	思考・判断・表現	44.5	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

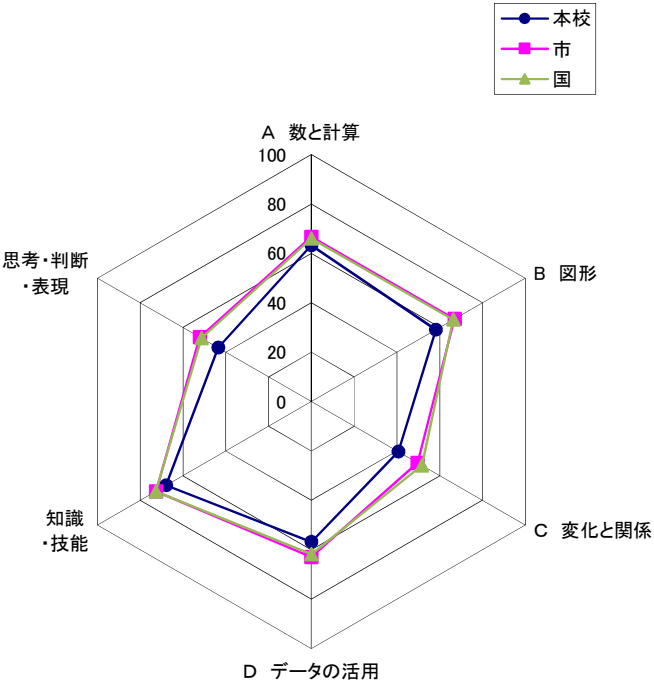
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市より低い。 ●学年別漢字配当表に示される漢字を文の中で正しく書くことに課題が見られる。 ●漢字の「書き」に対する苦手意識があり、正答率が低く、無回答率が高くなっている。	・6学年の新出漢字の定着に加えて、1から5学年の漢字の復習を授業に取り入れることで、小学校で学習する漢字の定着を図る。 ・日頃のノートの書き取りや、国語以外の各教科の授業やテストでも漢字を使用することを意識させる。 ・作文指導の際に、話し言葉を書き言葉に書き直させる推敲を取り入れることで、違いを明確にする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は市より低い。 ●第三者がまとめた文章を理解し、その意図や表し方を表現したものを適切に選択することに課題が見られる。 ●情報と情報との関連付けの仕方や図を読み取ることに課題が見られる。	・自分が書いた文章だけでなく、第三者が書いた文章に触れる機会を増やすことで、視野を広げ、意図をくみとる力を育てる。 ・視覚的な情報を文章にする活動を多くすることで、語彙力向上を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市より低い。 ●感想から筆者の気持ちや意図を読み取ることに課題が見られる。 ●文章を客観的に読み取ることに課題が見られる。	・筆者の気持ちや意図を正しく捉えることができるように、普段から他者の感想や振り返りを共有し、それに対して意見をもったり、伝え合ったりする機会をつくる。 ・客観的な事実と主観的な記述の区別を明確にできるように国語科の授業の中で指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市より低い。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られる。	・スピーチの材料をメモにまとめて話す機会を設けたり、授業中に工夫してノートをまとめたりするなど、メモを書いたり活用したりすることに取り組ませる。 ・ICTを活用し、視覚的にメモをとることでより活用しやすくなるように指導する。
B 書くこと	平均正答率は市より低い。 ●図から読み取り、自分の言葉で文章で表現することに課題が見られる。 ●条件に合わせて、文章を書く問いに課題が見られる。 ●文字数に条件がある記述の問題は約9%無回答が多い。	・話題を提示した日記指導を行い、楽しみながら書くことに取り組ませる。 ・少ない文字数から設定し、段々と増やしていくことで、書くことの苦手意識を無くしていく。
C 読むこと	平均正答率は市よりやや低い。 ●理由を述べながら自分の考えを規定の文字数で書き表すことに課題が見られる。 ●質問の与えられた条件を落とさず読み取ることに課題が見られる。	・文章の要旨を正しく捉えることは、全教科で必要な力であるので、様々な教科でも指導していく。 ・自分の考えをもち、文章化できるよう指導の工夫を図る。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.3	66.7	66.0
	B 図形	58.2	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	40.6	49.6	51.7
	D データの活用	56.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	67.9	72.6	72.8
	思考・判断・表現	43.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は市よりやや低い。 ○除数が小数である場合の除法の計算はできている。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことを苦手としている児童が多く見られた。	・普段の授業から意識して問題の場面を図に表して、解くようにさせる。
B 図形	平均正答率は市より低い。 ○直方体の辺の関係を理解できている児童が多い。 ●図形の面の構成について説明する問題において、県や国と比べて無回答が多く見られた。 ●球の直径で箱の体積を求める問題では、市の平均と大きな差はないが、正答率が低かった。	・既習事項を結び付ける問題を設定する。 ・見取り図をかかせるなど、作業を取り入れた具体的な活動を授業で行う。 ・様々な方法で表現する活動を意図的に授業に取り入れる。
C 変化と関係	平均正答率は市より低い。 ○時間を基に道のりとの関係を判断できる児童が多く見られた。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題に、課題が見られる。	・道のりと時間の関係について、根拠を基に説明ができるように場面を設定する。 ・文章問題に多く取り組ませる機会を増やす。
D データの活用	平均正答率は市より低い。 ○表から必要な情報を分類整理することはできている。 ●割合を苦手としている児童が多く見られた。	・繰り返し割合の問題を解かせることで、問題の解き方に慣れさせる。 ・日常生活において、割合を意識させる場面を意図的に設ける。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっている」の設問では肯定割合が90.8%と県の肯定割合に比べて約7ポイント高い。総合的な学習ふれあい発見ラリーなど本校の特色ある教育活動の成果が表れていると思われる。

○「友達関係に満足していますか」の設問では肯定割合が94.4%と高く、県の肯定割合よりやや高い。

○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の設問では、県平均より約10ポイント高い。授業の中でも積極的に一人一台端末を日頃から活用していることの表れと考えられる。

○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」の設問では、肯定割合が県と同程度である。今後も授業の中で友達と自分の考えと比較したり深めたりするなどの話し合い活動を取り入れていく。

●「算数の勉強は大切だと思うか」の設問には肯定割合が90%と高かった。それに対して「算数の勉強が好きか」という設問では肯定的意見が42%と半分以下で、県平均に比べても18ポイント低い。国語、理科でも同じ傾向が見られた。意欲をもって授業に臨めるよう努めていきたい。

●「自分にはよいところがあると思う」の設問では、肯定割合が79.6%で県の肯定割合より5.5ポイント低いが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の設問では、肯定割合が94.5%と県の平均よりも高いので、今後も児童の良さを認め、児童自身が自己肯定感を高められるような声掛けを継続していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の設問では、学習時間が1時間未満と回答した児童が68.5%で、県よりも28.5ポイント高い。学校としては、家庭学習の時間は60分以上と設定しているので、自主学習の勧めなど意識を高めさせたい。

●「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか」の設問では、肯定割合が74%で県の平均より13ポイント低くなっている。このことから、教科などで学習したことと実生活の中で実践していることが関連できるように意識づけさせていきたい。

●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の設問では、県平均と比べて11ポイント低い。自分の間違いに気付かない児童が見られるので、テスト直しから復習につなげられるように指導していきたい。

宇都宮市立清原東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎的・基本的な学習を身に付け言語感覚を豊かにする指導の工夫。	・漢字計算オリンピック、朝の学習等の工夫による基礎・基本の定着。 ・言葉に着目させる問いかけの工夫と効果的な言語活動の設定。 ・全児童における「つなぐ言葉・ふりかえりの言葉」カードの活用と表現力の向上。 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。	・基礎・基本の定着の中でも、特に漢字の「書き」に課題が見られた。 ・自分自身で表現することはできるが、第三者が記述した内容などを読み取ることが難しい児童が多い。 ・ある程度の字数を要する文章に対して苦手意識があり、記述することができない児童が多い。 ・算数では、問題文を理解する力が不十分である。 ・考えたことを文章や図で説明する力に課題がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・問題文を理解する力が不十分である。 ・考えたことを文章や図で説明する力に課題がある。	・基礎的・基本的な学習を身に付け言語感覚を豊かにする指導の工夫。 ・語彙力や表現力を付ける取組の工夫。 ・家庭学習の充実を図る取組	・一人一台端末を活用し、反復練習を行い、学習内容の定着を図る。 ・少ない文字数から作文に取り組ませ、その後、共有し互いに推敲をすることで、視野や価値観を広げる。 ・グループによる意図的な話し合い活動。 ・朝の学習等の工夫による基礎・基本の定着。 ・自主学習を計画的に取り組めるよう工夫する。